

Rotary

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

Serve To Change Lives



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 倉 井 章

幹 事 渡 邊 和 裕

会報・雑誌委員長 原 賢一

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2941号 2022年2月15日(曇り) 第29回例会 会員数114名

オンライン例会

点 鐘 倉井 章会長
司 会 副SAA 飯村会員

◇ロータリーソング「我等の生業」

※マスクを着用し、心の中で斉唱



会長挨拶

倉井 章会長

会員の皆様、こんにちは。多くの皆様のオンライン例会へのご参加、誠に有難うございます。

栃木県は、今日の下野新聞の報道によりますと、20日に期限を迎えます「まん延防止等重点措置」の延長を政府に要請する方向で調整しているようです。本県の新規感染者数は2月2日に1,000人を超え、その後も800~900人台と高水準で推移しています。直近1週間の増え方は鈍化傾向にあるものの、病床使用率が43.4%と依然高いようです。今後の状況次第ですが、オンライン例会の継続になりそうです。

ところで、2月は「平和と紛争予防/紛争解決」月間です。北朝鮮が1月、7回にわたり短距離、中距離の計11発のミサイルを発射しており、ロシアがウクライナとの国境周辺地域で軍備を増強し、10万人規模ともされるロシア軍がウクライナに侵攻するのではないかと懸念されています。そして先週もお話致しました新疆ウイグル自治区における人権侵害による弾圧など、現在でも紛争になりそうな状況が世界に広がっております。

ポールハリスは、二度の世界大戦の中を生き、世界平和の難しさを痛感し、多くの困難な体験から強く平和を希求し解決方法を模索しておりました。RIは世界平和実現のために、我々の援助で2002年に「ロータリー平和センター」を設立しています。毎年、ロータリー平和センター提携大学で学ぶ最高130名のフェローが世界中から選ばれ、ロータリーからフェローシップ(全額支給

の奨学金)が授与されます。プログラムとしては、修士号取得プログラムと専門能力開発修了証プログラムの2つがあり、国際基督教大学(ICU)を含む7校の大学と提携しております。

世界各地で紛争の絶えない今日、訓練を受けた平和構築のエキスパートが求められており、ロータリー平和センターでは、その平和構築に必要なとされる専門知識とスキルを養う機会を与え、平和の担い手となる人材を育てることを目指しております。但し、平和活動といっても多種多様で、センターでの学科も大学によって異なり、平和研究、紛争解決、国際関係、国際開発政策、環境問題、公共保健、行政学、その他、多岐にわたっています。このように、多様な平和の分野でスキルを高めた平和フェローが卒業後、国際機関、政府機関、そして世界中のNGOなど、様々な場所でリーダーシップを発揮し、また、平和の担い手として、国内や国家間の協力構築、平和の推進、争いの調停に貢献するように、ロータリーはプログラムを立ち上げています。

紛争は経済的貧困、教育機会の欠如、宗教の違いや民族間の対立、集団心理などが絡み合い、要因は複雑なもので、紛争の数だけ、過去の歴史的要因も積み重なっていると思われれます。それらを調査し分析して、多角的視点からアプローチし、世界平和を成し遂げる分野の研究が行われています。現在、世界中でおよそ1,500人以上の平和フェローが、平和構築のためにリーダーシップを発揮し活躍しています。

本日の卓話は、新会員によりますイニシエーション・スピーチです。吉田努会員と関口泰成会員をお願いをしております。お二人とも、宜しくお願ひ致します。皆様、本日も最後までオンラインでのご参加、宜しくお願ひ致します。



幹事報告

渡邊和裕幹事

- ◇後期会費がまだの方はお振り込みをお願いします。
- ◇全国のローターアクターで全国一斉献血活動
第2550地区RACでは栃木県の赤十字センター
と協働で、2月20日（日）午前10時よりベル
モールにて開催。ご協力をお願いします

「3分間スピーチ」



山中和弥会員

皆さん、こんにちは。私は倉井現会長が幹事の時、太城会長の年度に川村先生の推薦で2010年11月に入会させて頂きました。入会后すぐの1月にクラブ創立50周年式典があり、何かなんとかかわからずに参加していた記憶があります。そして2月にはあの東日本大震災が発生しました。当時、発生してすぐに、太城会長が支援物資を大船渡に車で持っていくと例会で有志を募っていたことを思い出します。私は凄惨な災害現場に行く勇気が持てず、手を上げられなかったことが残念で、後悔していました。

そして縁あってか、五味渕年度に社会奉仕委員長を仰せつかったことで、太城パストガバナー、高野パスト会長や諸先輩のご指導のもと、塩害で花見ができなくなった大船渡市への支援事業「お花見復活プロジェクト」へ参加させて頂くことができました。この事業はこのあと三か年にわたり行われ、渡邊年度では当クラブの60周年記念事業として実施され、大変感謝されました。地域の住民の方々の喜びを肌で感じる事ができ、ロータリーの活動って素晴らしいなあ、情けは人の為ならずだなあと、強く心に残る活動ができました。震災後11年が経とうとしていますが、復興はまだ道半ばです。今後も何かしらの形で、東北を支援していけたらと思っています。

話が変わりまして、私の趣味が酒とゴルフという事は知っていただけていると思いますが、もう一つ、オープンカーでのドライブがあります。オープンカー乗りは少ないため仲間意識が高く、SNSサイトやlineなどで同志が集まり、オフ会やツーリングなど楽しんでおります。オープ

ンカーというのと南の島のイメージで夏が最適と思われがちですが、ベストシーズンは春と晩秋から冬です。ちょうど露天風呂に入っているような感じで、鳥のさえずりなどを聞きながらのドライブは最高です。私は今年、還暦を迎えますが、仕事に趣味に楽しく付き合いながらクラブの諸先輩を見習って、よい歳の取り方をしていきたいと思っています。ぜひぜひ、ゴルフ、酒飲みにも今後とも長くお付き合いいただけることをお願いしまして、私の3分間スピーチを終わらせて頂きます。

※次回3分間スピーチは田原 聖会員



卓話

新会員卓話 インニエーション・スピーチ



吉田 努会員

本日は卓話の機会をいただきありがとうございます。自己紹介と、趣味を通じて感じていることをお話させていただきます。

私は群馬銀行宇都宮支店に勤務しております、その関係でロータリーさんにお世話になることになりました。宇都宮の勤務は2度目で、以前、宇都宮東支店で支店長として2年半ほど勤務いたしましたので、少し、土地勘があります。昨年6月に宇都宮支店と宇都宮東支店が統合することになり、そういった経緯からまた宇都宮で働くことになったのかなと思っています。

出身は群馬の富岡で、平日は宇都宮にいますが、週末には群馬に帰る生活をおくっています。土日は山の方で遊ぶことが多く、この時期は主にスキーに行っています。ゴルフ、山歩き、畑仕事などもやっております。学生の頃は、東京の学校にいたのですが、住み込みで長野の八ヶ岳周辺や、冬は白馬八方尾根スキー場で働き、それが今の趣味に繋がっていると思います。昨年夏は山歩きで、JRの大人の休日倶楽部で吉永小百合さんが行った八ヶ岳中腹にある白駒池を歩きました。健康も含めてそんな趣味を持っています。

ロータリーに入り、大人の休日ゴルフ倶楽部に参加させていただいて感じたことをお話いたします。まだ一度しか参加できていないのですが、倉井会長、稲見さん、五味渕さんとご一緒させて

いただき、ゴルフはこういう風楽しむものだと感じました。一緒に回っていただいている方々のお話や言葉が心地よく、気持ちよく、大人の休日ゴルフ倶楽部には、普段やるゴルフと違い、本当の意味での楽しさや豊かさを感じたと思います。これは、ロータリークラブの集まりの中にもあるものなのだろうと思いました。

今、一番の趣味は、52歳ですが、週末はほぼスキー場に行って一生懸命滑っています。白馬の八方尾根スキー場に、黒菱ゲレンデという、こぶがもの凄いゲレンデがあるのですが、そこを自分なりに滑りきりたい、という目標があります。その目標に向かって近くのスキー場で地味な練習をやっています。その中で自分が感じていること、生き方の話なのですが…。スキーの「滑る」という動作を解釈すると、ズレる、斜めに進んでいく、或いは、縦に降りて横に進んでいく、下から見ると滑っているように見える、など、いろいろなことを思いながらスキーの練習をしています。上から下に降りるのは負担ではありませんが、横に進んでいく、これは、止まるという感覚になるのかもしれませんが、それがもの凄く大切で、パワーがいることだと思います。一緒に働く人に「前を向いて一生懸命やれ」と説教しているのですが、そうでなくて、時に止まったり、横に進んだり、そういうことももの凄く大切なことなのだと、スキーの練習をしながら思っています。

仕事という一定の役割もありますが、縁があってロータリークラブに参加させていただいて、前を向くだけでなく、時には止まったり、横を向いたり、自身の人生を豊かにさせていただく、そういう時間を持たせていただいていると感じています。クラブのために幾らかでもお役にたてるようにやっていきたいと考えております。引続き、大人の休日ゴルフ倶楽部にも参加し、いろいろなお話を聞かせていただき、自身のプラスにさせていただいて、これからも進んでいければと考えております。



関口 泰成会員
皆さん、こんにちは。倉井会長、渡邊幹事の時に入会出来たこと、大変嬉しく思っています。今

日は、自己紹介と2001年に人生初の帯同キャディ(プロキャディ)をいたしましたので、そのお話をしたいと思います。

私は平成10年に(株)ミナミハウジングを設立しました。不動産業界に入社する前は、服部セイコーの生産事業部で仕事をしていました。その時にたまたま知り合った社長に不動産屋に向いていると言われ、25歳の時に宅建に挑戦し、あえなく落ちて、1年間、専門学校に通いました。翌年に合格し、27歳の時から宇都宮で不動産業の営業マンとして、新日本リフォームハウス(現グランディハウス)などで務めさせていただき、35歳の時に今の会社を立ち上げました。今年でちょうど25年になり、私は還暦です。当社のモットーは「安心・安全・おもてなし」なのですが、最近では、ワンランク上の「信頼とおもてなしのところがつなぐ、その先の未来」を目指しています。地域密着はもちろんのことですが、当社が一番のお客様サービスは、この会員でもあります戸田弁護士をはじめ、7名の仲良くさせていただいている法律の専門家がおりますので、随時、法律無料相談会を実施しております。他社と変わった特色があると思っています。

プロキャディの話ですが…。2001年10月に埼玉の狭山にある東京ゴルフ倶楽部で開催の日本オープンに、友人の崎山武志さんから…彼とは24歳からの付き合いなのですが…「権利をとったのでキャディをやらないか」と言われ、私も39歳で元気だったので、人生初のキャディをやりたいと思い引き受けました。優勝は手嶋多一選手だったのですが、組み合わせは時の賞金王伊沢利光さんと宮里聖志君でした。東京ゴルフ倶楽部のコースは名門中の名門です。火曜日の朝初めて練習ラウンドに入りました。今から21年前のゴルフは凄かったです。ゴルファーは神様みたいな存在であがめられていて、キャディもそれなりに優遇されておりました。埼玉の支援者が昼夜ついでくださり、貴重な経験をさせていただきました。初日は木曜日で、確か2組目の7時7分、プロゴルファーは2時間前にコースに入りますので、食事は5時前ですが、埼玉の方が自宅で料亭のようなご飯を用意してくれました。朝の5時ですが、大勢のギャラリーがいました。スタート前にはクラブの全てを確認され、そこまではなんとか順調だったのですが、実は、朝ご飯をしっかりと食べたものですから、お腹の方が緩くなり、トイレに駆け込み、崎山プロが打った第一打を見ていなかった、という前代未聞の笑い話があります。3、4番ホールはラフが深く、当時は、ボール探しは5分間だったのですが、5分間はあっという間でした。幸いその時は一度もロストはなかったのです

が、打ったボールがわからなくなる 10～15 cm のヘビーラフでした。その時崎山プロは、実はあまり調子が良くなかったのですが、バンカーのなりし方が悪いとか、玉の拭き方がよくないとか、プレー中にけんかをしながら、というような初ラウンドという印象です。また、これは貴重な体験だったのですが、伊沢選手がバンカーショットをすると伊沢選手のキャディがバンカーをならすのですが、その間、伊沢選手のボールは私か宮里君のキャディが拭いてあげることになり、そこで、伊沢選手と会話をする事が出来ました。17番の180Y位のショートホールでは、笑い話になってしまうのですが、テニスのような格好をした女性が近寄ってきて「おいつつですか？」と聞いたので「39歳」と答えました。それは何番のクラブを使うか、ということだったのですが、まったく頭に浮かびませんでした。崎山プロからは「真面目にやれよ」と言われました。そんなことをやっていたので、結果としては1打及ばず、予選落ちになってしまいました。埼玉から栃木に帰る車の中、彼と

は一言も話さず帰りました。当時は、優勝は出来なかったのですが、シニアになってからはツアー7勝と活躍しております。

その2年後に、広陵カントリークラブの中庸行プロのキャディとして、瀬戸内海ゴルフ倶楽部のミズノオープンで2度目のキャディをやらせてもらいました。その時はなんと6位の好成績を取めました。なかなか、アマチュアとしてプロのキャディでやることはないので、経験の出来ない貴重な体験をさせて頂きました。

崎山プロとはレギュラー時代からの知り合いで、彼を通じていろいろな方と公私ともにお付き合いをさせて頂き、仕事でも貢献していただいております。友人というのは大切なものだと感じております。ゴルフを通じて貴重な経験をさせて頂き、自分にとっての一つの財産であると思っています。ゴルフが人生の一部になっていると改めて感じています。また、機会があれば2003年のミズノオープンの話をさせて頂ければと思います。